(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3705648号
(P3705648)
(45)発行日　平成17年10月12日(2005.10.12)　(24)登録日　平成17年8月5日(2005.8.5)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B26B 21/18　B26B 21/18

請求項の数 1　(全 5 頁)

(21)出願番号　特願平8-75548
(22)出願日　平成8年3月29日(1996.3.29)
(65)公開番号　特開平9-262383
(43)公開日　平成9年10月7日(1997.10.7)
審査請求日　平成14年9月19日(2002.9.19)

(73)特許権者　390005522
クリハ工業株式会社
群馬県邑楽郡千代田町大字赤岩１９４番地
(74)代理人　100059236
弁理士　土橋　秀夫
(74)代理人　100074192
弁理士　江藤　剛
(72)発明者　栗原登
群馬県邑楽郡千代田町大字赤岩１９４番地
クリハ工業株式会社内
(72)発明者　小島和子
群馬県邑楽郡千代田町大字赤岩１９４番地
クリハ工業株式会社内

審査官　二階堂　恭弘

最終頁に続く

(54)【発明の名称】２枚刃かみそり

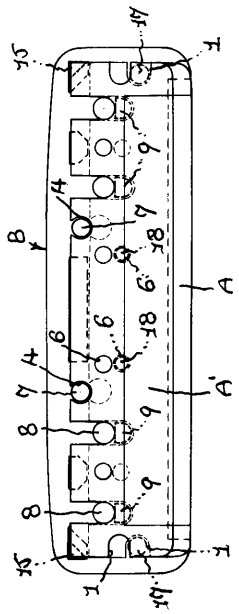
(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記（Ｘ）（Ｙ）（Ｚ）３要素の結合から成り立つ２枚刃かみそり。
（Ｘ）左右方向の両端にコ形切欠（１）を形成し、前記左右方向に沿って設けた刃先（２）の反対端縁（３）に、欠円形切欠（４）と深いＵ形切欠（５）をそれぞれ複数箇所設け、更に、前記刃先（２）の、前記反対端縁（３）側の後方に下刃押え（１３）の貫通孔（６）を複数開設した、同形の一対の刃板（Ａ）と（Ａ´）を用いること、
（Ｙ）下刃となる一方の刃板（Ａ）のコ形切欠（１）が係合する上刃受（１７）及び前記Ｕ形切欠（５）が係合する、上下両刃間の隙間を形成する隙間形成突起（９）並びに上刃となる他方の刃板（Ａ´）の欠円形切欠（４）が係合する突子（７）をそれぞれ上面に複数突設した把柄（１０）付きの本体（Ｂ）を備えていること、
（Ｚ）他方の刃板（Ａ´）を前記一方の刃板（Ａ）の後方にずらせて上刃として重ね、前記上刃受（１７）と前記隙間形成突起（９）に載架して２枚刃とした前記一対の刃板（Ａ）（Ａ´）を被い、該一対の刃板（Ａ）（Ａ´）の、互いに部分的に重なり合う前記Ｕ形切欠（５）を経て本体（Ｂ）に開設した貫通孔（８）を通って該本体（Ｂ）に固定される固定杆（１２）と、上刃となる前記他方の刃板（Ａ´）の前記貫通孔（６）を通じて下刃となる前記一方の刃板（Ａ）を押える前記下刃押え（１３）とを複数突設したキャップ板（Ｃ）を有すること。
【発明の詳細な説明】
【０００１】

【発明の属する技術分野】
本発明は安全かみそり、特に２枚刃をもつかみそりの改良に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
２枚刃かみそりは下刃と上刃とが僅かに段差をもたせて重ねられるものである。従来は下刃と上刃とは全く構造の異なるものをかみそり本体とその上に重ねるキャップ体との間に挟着したものである。従って２枚の別々の刃を製作する必要があり、２枚の刃をずらせた状態で固定する構造も複雑であり、非常に手数と費用を要した。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
本発明の課題は、同じ構造の刃を２枚用い、しかも下刃と上刃とに段差を持たせて取付け円滑に２枚の刃を運行できるものを提供することにある。
【０００４】
【課題を解決するための手段】
本発明は同形同構成の２枚の刃板と、その刃板を上下刃先を僅少ずらせて安定させる構造の把柄付き本体と、本体の上に重ねて上下の刃板を正規の位置で固定させるためのキャップ板とからなるものである。
【０００５】
【発明の実施の形態】
本発明は２枚の同形同構造の刃板Ａ，Ａ´と、把柄１０付きの本体Ｂと本体Ｂの上に重ねて前後僅少ずらせた一対の前記刃板Ａ，Ａ´を挟圧保持するキャップ板Ｃとから成る。
図４に示すように同形の刃板Ａ及びＡ´の構造は次のとおりである。
左右方向の両端縁にコ形切欠１を形成し、前記左右方向に沿って設けた刃先２の反対端縁３に欠円形切欠４を２箇所、その外側に深いＵ形切欠５を４箇所設け、前記反対端縁３と刃先２の間に下刃押え１３の貫通孔６を４箇所開設してある。
次に本体Ｂの構造を示す（図１、図３参照）。
上刃となる他方の刃板Ａ´の欠円形切欠４が係合する突子７を２箇所及び刃板Ａ´の深いＵ形切欠５に重ねる貫通孔８をそれぞれ設け、また、他方の刃板Ａ´を受支し、下刃となる一方の刃板Ａとの隙間を形成する隙間形成突起９を４箇所突設し、一方の刃板Ａのコ形切欠１が係合する上刃受１７を２箇所突出させ、一方の刃板Ａの貫通孔６が係合し、他方の刃板Ａ´を受け止め、前記隙間形成突起９の間に突出する突起１８を２箇所設ける。
また、キャップ板Ｃの構造は以下の通りである。
他方の刃板Ａ´を前記一方の刃板Ａの後方にずらせて上刃として重ね、前記上刃受１７と前記隙間形成突起９に載架して２枚刃とした前記一対の刃板Ａ，Ａ´を被い、しかも、該一対の刃板Ａ，Ａ´の、互いに部分的に重なり合う前記Ｕ形切欠５を経て本体Ｂに開設した貫通孔８を通って圧着固定される固定杆１２を４箇所突設し、更に、前記貫通孔６を通じて下刃となる前記一方の刃板Ａを押える下刃押え１３を複数突設してある。
図中２０はキャップ板Ｃに設けた下刃押え、２１はキャップ板Ｃに設けた被い片、１９は本体Ｂの突子７が嵌まる孔、１５は本体の隅角部上刃受である。
【０００６】
そして、本体Ｂの上に下刃となる一方の刃板Ａを載せ、その上に上刃となる他方の刃板Ａ´を載せると図１のように安定し、その上にキャップ板Ｃをかぶせて固定杆１２を貫通孔８を経てその先を本体Ｂに固定して、上下の両刃板Ａ´，Ａを挟着して２枚刃かみそりとするのである。
【０００７】
【発明の効果】
本発明によれば下刃と上刃の２枚の刃とも同一構造のものを互いにずらせて本体と、キャップ板で挟着して完成するので、従来のように、下刃と上刃を違った構造にする必要がなく、全体の構造は非常に簡易化され、製作上は極めて有利であり量産に適する。
【図面の簡単な説明】

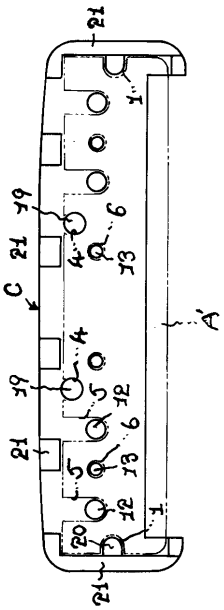
【図１】　キャップ板を取外した本体部の平面図。
【図２】　キャップ板の裏面図。
【図３】　全体の縦断側面図。
【図４】　刃板の平面図。
【符号の説明】

Ａ，Ａ′	刃板
Ｂ	本体
Ｃ	キャップ板
１	コ形切欠
２	刃先
４	欠円形切欠
５	Ｕ形切欠
６	刃板の貫通孔
７	突子
８	本体の貫通孔
９	隙間形成突起
１７	上刃受
１８	突起

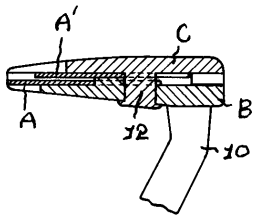
【図１】



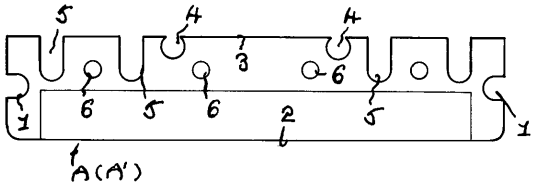
【図２】



【図３】



【図４】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開昭５３－０３１４２４（ＪＰ，Ａ）
実開昭５０－１０８６８９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
B26B 21/18